

大切なことは

どのように伝わるのか

その答えがここに

キリシタン復活物語

そして サンタ・マリアがいた

監督・脚本 古巣 馨

2018年12月16日 日
開場 11:30 開演 12:30

会場：福江文化会館
(長崎県五島市池田町1番2号)
TEL 0959-72-5741

- チケットは五島市の各教会にて販売 (入場料 1,000円)
- お問い合わせ先：劇団さばと座(林田 TEL 090-8628-5784)

主催 劇団さばと座(長崎教区信徒・司祭・民間劇団有志)

協賛 下五島地区カトリック教会

これは、私も受けたものです

— 信徒発見150周年記念の意義 —

◆信仰は受けたもの

「自分で自分に生命を与えることができないように、だれも自分に信仰を与えることはできません。信仰者は、信仰を他の人から受け取りました。それを他の人に伝えなければなりません」(カテキズム166) 人生を支える私の信仰は、誰から受け取りましたか。そして、あなたはその信仰を誰に手渡そうとしていますか。「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものなのです」

(一コリント15・3)

◆記念することは、問いかけに応えること

「時は神からの使者です」と言ったのは、フランシスコ・ザビエルと一緒にイエズス会を創立したピエール・ファールです。一昨年、私たちは信徒発見150年の節目を迎え、あの奇跡的な出来事を記念しました。250年間、過酷な弾圧と司祭不在の中、それでも信仰を絶やすことなく「オナジ思い」を手渡してきた先祖が、いま問いかけてきます。「私たちが命がけで手渡してきた信仰を、あなたは今も大切に生きていますか」「オナジ思いを、子どもたちに手渡していますか」「受けた大切なものを、世の中のこととすり替えてはいませんか」この問いかけに、あなたはどうか応えますか。



◆信徒発見の出来事に、私たちの明日への道が示されている

「ガリラヤへ行きなさい。そこで会うことになる」復活の朝、イエスが告げた最初の福音はガリラヤへ行くことでした。ガリラヤとは初めてキリストに出会い、その福音を支えに生きようと決めた場所のことです。ガリラヤに招かれたのは古き良き時代を懐かしむためではなく、再びそこから派遣されるためでした。信徒発見の出来事は、日本の教会にとってガリラヤと同じです。信仰はどのように育つのか、どうした

ら伝わっていくのか。信徒発見の出来事には、今、行き詰まっている教会の明日への道がはっきりと示されています。

◆そしてサンタ・マリアがいた

「サンタ・マリアのご像はどこ？」いざというとき、日本の信者は聖母マリアの名を口にしてきました。イエスの十字架の傍らに立つマリアは、すべての苦しむ人たちの母となりました。ぶどう酒が底をついてうろたえたあのカナの婚宴にマリアがいたように、250年の司祭不在の信者たちの中にも聖母マリアがいました。

教会が生まれるところ、難儀する信者たちのそばに、今もサンタ・マリアがいてくださいます。150年前の信徒発見は、サンタ・マリアが見守る中で起こった出来事でした。たどればカナの婚礼とイエスの十字架の傍らに立つ聖母マリアに至ります。「イエスの母がそこにいた」(ヨハネ2・1;19・25) この度の記念劇の題名はここから生まれたものです。

◆信徒発見は、私たちの信仰の原点

「約束通り、ほんとうに神父様がおいでなされた」250年間受け渡されてきた約束の実現は、福音となって長崎県下から始まり、熊本の天草、福岡の今村へもたらされていきます。浦上は高木仙右衛門、天草は道田嘉吉と大崎辰造、今村は平田彌吉と信右衛門らが福音を受け、大浦に出向いて行きます。出向いた人たちは、寄り添う人、かかわる人、一緒に祝う人になっていきます。ここに私たちが受けた信仰の原点があります。今また出向くときがきました。

信徒発見150周年記念劇『そしてサンタ・マリアがいた』を共に観劇し、日本の教会が手渡してきた信仰を確かめ、これからの道をしっかりと心に刻みたいと思います。